



牛・豚の品種



牛の種類は3つのグループに大別されます。

1. 和牛

日本で古くから肉質改良されたもので、おもに4つの品種（黒毛和種・褐毛和種・日本短角種・無角和種）があります。黒毛和種がその大半を占めています。

2. 乳用種牛

牛乳生産の目的で育てられた子牛の中で、おもにそのオスを肉資源として育てたもの。ホルスタイン種がその大半を占めています。

3. 肉専用種と乳用種の交配種

乳用種に肉専用種（和牛・ヘレフォード・アンガス等）の種を交配して生まれた牛を育てたもの。乳用種に和牛の種を交配し、肉質改良されたものが国産牛には増えています。

豚の種類は大きく2つに分けられます。

1. 普通豚

「大ヨークシャー・ランドレース・デュロック」の3種の豚を交配したもの。この交配種が豚肉の約75%を占めています。

2. 黒豚

「鹿児島産・黒豚」「カナダ産・黒豚」など国産、外国産を問わず純粋なバークシャー種のみを「黒豚」といいます。

牛の主な品種

type of cow



和牛

©独立行政法人 家畜改良センター

■発祥地・肥育エリアなど

明治の時代から品種改良が行われ、1918年より登録開始、1944年に品種が固定したと結論されています。和牛の大半を占め、全国各地で飼育されています。

黒毛和種

【Japanese Black】

■特徴

毛色は黒単色で褐色を帯びています。脂肪交雑、肉の色沢、肉のきめ及び縮まりなどの肉質形質に優れた遺伝的特性をもっています。



和牛

©独立行政法人 家畜改良センター

■発祥地・肥育エリアなど

熊本県で放牧に適する牛として改良した「肥後牛」と、高知県で韓国牛から改良された「高知系」のものがあります。

褐毛和種

【Japanese Brown】

■特徴

毛色は黄褐色から赤褐色。性質は温順で、強健の上、耐熱性に優れ、粗資料利用性が高い品種。黒毛和種よりは脂肪交雑の入り方は少ないものの、草を与えた健康な赤身肉として評判が高いです。



type of cow



和牛

©独立行政法人 家畜改良センター

■発祥地・肥育エリアなど

山口県阿武(あぶ)郡で在来和牛をアバディーン・アンガス種によって改良して生まれた品種で、中国地方で飼われているのみです。

無角和種

【Japanese Polled】

■特徴

毛色は黒単色(黒毛和種よりも黒味が強い)。増体速度が速く、粗飼料の利用効率が高い品種。肉質の面では脂肪交雑やきめなどが黒毛和種に比較すると劣っています。



和牛

©独立行政法人 家畜改良センター

■発祥地・肥育エリアなど

南部牛とアメリカから輸入されたショートホーン種、デイリー・ショートホーン種を交配して改良されたもの。東北地方の北部原産で今は岩手県を中心に飼われています。

日本短角種

【Japanese Shorthorn】

■特徴

毛色は濃赤褐色。粗飼料の利用効率が高く、北日本の気候・風土に適合しています。肉質の面では脂肪交雑やきめなどが黒毛和種に比較すると劣っていますが、東北地方の放牧形式による肉牛生産に向くため、生産地の愛好は強いです。

牛の主な品種

type of cow



©独立行政法人 家畜改良センター

アバディーン・ アンガス種

[Aberdeen Angus]

■発祥地・肥育エリアなど

英国スコットランドで作られた品種で、ヨーロッパや豪州で多く飼われています。

■特徴

毛色は黒単色。粗飼料の利用効率が良く、乳量も多いので放牧飼養に適しています。肉質も外国種の中では優れています。



©独立行政法人 家畜改良センター

ヘレフォード種

[Hereford]

■発祥地・肥育エリアなど

英国イングランド地方が原産地。アメリカや豪州でも多く飼われています。

■特徴

毛色は赤褐色で顔面・胸・腹にかけては白色。非常に強健で、暑さ、寒さ、乾燥などの過酷な自然条件によく適応します。肉質はアバディーン・アンガス種よりやや劣ります。



type of cow

牛の主な品種

type of cow



©一般社団法人 全国肉用牛振興基金協会

シャロレー種

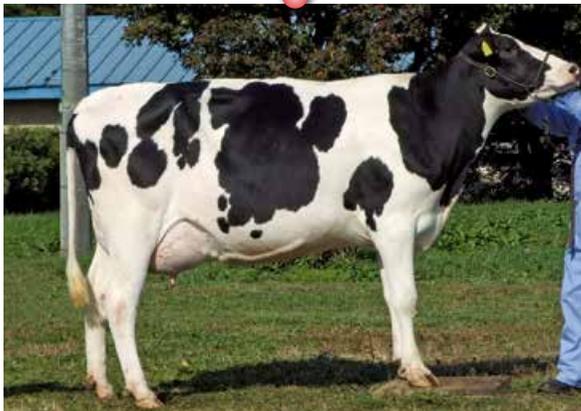
[Charolais]

■発祥地・肥育エリアなど

フランスシャロレー地方が原産地。フランス、イギリスで多く飼われています。

■特徴

毛色はクリーム色単色で、額に縮れ毛があります。環境適応力も高い。肉質は脂肪が少なく赤肉生産用とされています。



©独立行政法人 家畜改良センター

ホルスタイン種

[Holstein]

■発祥地・肥育エリアなど

原産国はオランダの北オランダ州および、フリースランド州、ドイツのホルスタイン地方。現在日本で飼養されている乳牛の大半、肉用牛の約半数をホルスタイン種が占めています。

■特徴

毛色は白黒斑ないし黒白斑。泌乳量が多く、乳脂率は低いが、性質は温順で環境適応性が高い品種。肉質を改善して肥育するF1肥育も盛んになってきています。